

グリーンプレゼント—— 出生記念樹

都市化の波に洗われ、福生の緑は年ごとに少なくなっています。

市では、昭和50年10月に緑を守り育てる条例を制定、緑化推進運動を行ってきています。その計画



出生記念樹

のひとつとして、生まれた赤ちゃんに市の木(モクセイ)、市の花(ツツジ)をプレゼントする“出生記念樹の無料配布”があります。



● 配水量の推移

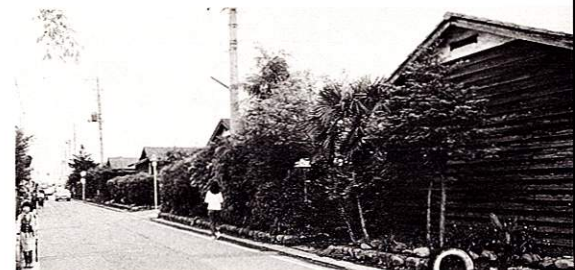
福生 ライフアップ

● 1人当たり

公園緑地6m²をめざして

日本の都市公園の第1号は、上野寛永寺境内や京都の嵐山などで、明治6年に定められました。以後、百年たちましたが、わが国の1人当たり都市公園面積はわずか3.8m²、ロンドンの30.4m²に比べると驚くほど少ない数字です。では、本市はどうでしょうか。

市の都市公園は30カ所(児童公



市営住宅

園10)で、1人当たりの公園面積は3.4m²です。この数字は東京23区の1.7m²よりはるかに高い数字を示していますが、全国平均よりは低いようです。

これが本市の公園の現況ですが、これらの公園はたんなる憩いの場としてばかりでなく、災害時の避難場所としても重要です。

自然緑地については、徐々に失われつつありますが、子どもや孫の代まで残すべき貴重な空間であり、玉川上水とともに総合的に保全に努め、緑を生かした魅力あるまちづくりを進めていきます。



グリーンベルト

● 公共施設や市内の緑化を

おし寄せせる都市化のため、しだいに緑が失われ、生活環境は悪化していきます。それを防ぐためには、失われた自然環境の回復をはかり、人間と自然とが一体となった環境整備が必要です。

現在、緑化対策としては、緑化推進運動の“緑を育てる”“緑を守る”“緑を大切に作る心をつくる”をモットーとしながら、出生記念樹の無料配布、緑化用苗木育成管理委託事業、草花の種子無料配布、緑の相談日、公共施設の植樹を進めています。今後は、公共施設への植樹、道路緑化に努めるのみならず、一般家庭に対しても緑の拡大をはかっていきます。

● 1日最大配水量は2万4,640 m³

市民の生活に1日たりとも欠くことのできないのが“水”。市では、ゆたかできれいな生活用水を給水するため、地下水のほかに都補給水にたよっています。

昭和54年度に、市内に配水した水の量682万5,293m³。そのうち、約50%、324万3,163m³が都補給水の量です。普及率99.9%です。

しかし、地下水源には限度があ



浄水場

に努めるため、都の諸施策を全面的にバックアップしていきます。



文化の森

り、取水量は年々減る一方で、都からの補給水にたよらざるをえなくなっており、その量は50年度において総配水量のまでしたが、54年度では50%にも達し、今後、水洗化率100%になると、さらに使用水量の増加が見込まれます。

市の上水道は、50年2月都への一元化が実現、市は受託により事業を進めていますが、今後も市民に安定した給水とサービスの向上